

2017 年 12 月 7 日

報道関係各位

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

2017 年度PRアワードグランプリが決定 「ちょうどこの高さ。」(ヤフー(株))が受賞

(公社)日本パブリックリレーションズ協会はこのほど、2017 年度「PRアワードグランプリ」最終選考会を開催し、今年度の『グランプリ』受賞エントリーに「ちょうどこの高さ。」

(エントリー会社：ヤフー(株)、事業主体：ヤフー(株))を選出いたしました。

また『ゴールド』には、「この国に眠る 女性 300 万人の [潜在労働力] に活躍の場を。

主婦を活かす、新・マクドナルド人事戦略PR」(エントリー会社：(株)電通、事業主体：

日本マクドナルド(株))、「聞こえる選挙 | 東京都議選, 衆議院選特設サイト」(エントリー

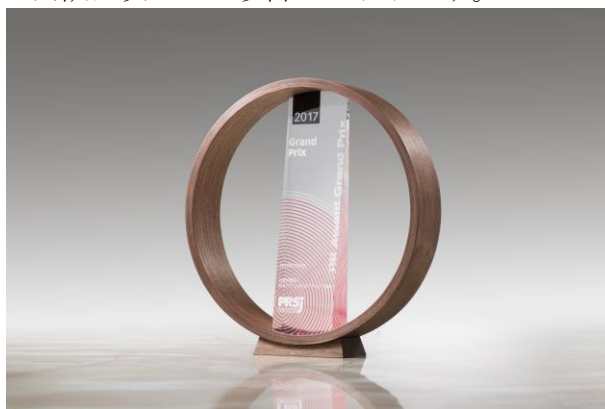
会社：(株)電通、事業主体：ヤフー(株))、「FISHERMAN CALL」(エントリー会社：(株)

電通、事業主体：(社)フィッシャーマン・ジャパン)、の 3 エントリーを選出いたしました。

また同時に、『シルバー』には 4 エントリーが選出されています。

「PRアワードグランプリ」事業は、優れたPR事例を選考・顕彰することで、PRの普及と発展を目的に毎年実施しています。“プロによるプロの審査”を目指して、審査プロセスや審査員の顔ぶれを昨年度より一新し、今年度は 75 エントリーの応募がありました。

『グランプリ』『ゴールド』『シルバー』を受賞した 8 エントリー、および先に決定した「ブロンズ」7 エントリーの内訳は次ページ以降のとおりです。



今年度新たに制作された PR アワードグランプリのトロフィー

□2017 年度 P R アワードグランプリ受賞エントリー（全 15 エントリー）

＜グランプリ＞（1 エントリー）

■ 「ちょうどこの高さ。」

エントリー会社：ヤフー株式会社

事業主体：ヤフー株式会社

応募部門：ソーシャル・コミュニケーション部門

＜ゴールド＞（3 エントリー）

■ この国に眠る 女性 300 万人の〔潜在労働力〕に活躍の場を。

主婦を活かす、新・マクドナルド人事戦略 P R

エントリー会社：株式会社電通

事業主体：日本マクドナルド株式会社

応募部門：コーポレート・コミュニケーション部門

■ 聞こえる選挙 | 東京都議選, 衆議院選特設サイト

エントリー会社：株式会社電通

事業主体：ヤフー株式会社

応募部門：コーポレート・コミュニケーション部門

■ FISHERMAN CALL

エントリー会社：株式会社電通

事業主体：社団法人フィッシャーマン・ジャパン

応募部門：ソーシャル・コミュニケーション部門

<シルバー>（4 エントリー）

■ WITH STAMP (=Your name with REDLIST Animals)

エントリー会社：株式会社アサツー ディ・ケイ /PARTY

事業主体：WWF ジャパン

応募部門：マーケティング・コミュニケーション部門

■ 「業界の壁」を取り除く日本気象協会の共創型 BtoB コミュニケーション

「気象」×「ビジネス」でサプライチェーン全体の位置づけを変える！

エントリー会社：一般財団法人日本気象協会／株式会社オズマピーアール

事業主体：一般財団法人日本気象協会

応募部門：コーポレート・コミュニケーション部門

■ 一般社団法人日本アンガーマネジメント協会 PR・プロモーションプロジェクト

エントリー会社：株式会社サニーサイドアップ

事業主体：一般社団法人日本アンガーマネジメント協会

応募部門：ソーシャル・コミュニケーション部門

■ 7 年間のロコモティブシンドローム啓発運動

～課題先進国だからこそできた CSV プラットフォーム～

エントリー会社：ロコモ チャレンジ！推進協議会

（公益社団法人日本整形外科学会と株式会社博報堂の JV）

事業主体：ロコモ チャレンジ！推進協議会

応募部門：ソーシャル・コミュニケーション部門

<ブロンズ>エントリー

■ 社歌で中小企業を元気に！ 中小企業、支援プロジェクト

エントリー会社：株式会社電通パブリックリレーションズ／株式会社電通

事業主体：株式会社電通

応募部門：ソーシャル・コミュニケーション部門

■ PR パーソン生まれの “味のメディア化”『プリウス試乗味プロジェクト』

エントリー会社：株式会社電通／株式会社電通パブリックリレーションズ

事業主体：株式会社トヨタマーケティングジャパン

応募部門：マーケティング・コミュニケーション部門

■ Banana Message

エントリー会社：電通ヤング・アンド・ルビカム株式会社

事業主体：株式会社ドール

応募部門：マーケティング・コミュニケーション部門

■ おいしいプログラミング学習アプリ [GLICODE®]

エントリー会社：株式会社電通／株式会社電通パブリックリレーションズ

事業主体：江崎グリコ株式会社

応募部門：コーポレート・コミュニケーション部門

■ 「定時退社訓練」by よなよなエール

～「働き方改革」に本音とユーモアで一石を投じて、国と企業と生活者を動かせ～

エントリー会社：株式会社電通デジタル

事業主体：株式会社ヤッホーブルーイング

応募部門：コーポレート・コミュニケーション部門

■ LIXIL 「グローバルな衛生課題の解決」に向けて

エントリー会社：株式会社 LIXIL

事業主体：株式会社 LIXIL

応募部門：ソーシャル・コミュニケーション部門

■ TRY! Noodle Cradle

検証！うどんをすする音で本当に赤ちゃんは泣きやむのか？

エントリー会社：株式会社電通

事業主体：香川県

応募部門：コーポレート・コミュニケーション部門

<嶋 浩一郎・審査委員長の講評コメント>

PR の仕事の醍醐味は PR パーソンが開発したストーリーで第三者を巻き込み社会に新しい合意を形成していくことだ。今回の PR アワードグランプリの審査を通じて、改めてそういう PR の仕事の可能性を感じることができた。

今年の上位作品は働き方改革や、障がい者の問題、防災意識、高齢者の健康問題など難しい社会課題に立ち向かった仕事が多かった。そして、それぞれの作品が着実に成果をあげていた。

グランプリ選考は僅差の争いだった。グランプリに選出された『ちょうどこの高さ。』（ヤフー）は、震災の記憶が風化していくなか、銀座のど真ん中に一本の赤い線を引くというシンプルだが力強いアイデアで生活者の災害に対する意識を高めた。ひとつの圧倒的なアイデアで世の中を動かしたことが審査員に評価された。

惜しくもグランプリを逃したマクドナルドの人事PRは、働きたいのに働けない主婦がいるという問題を世の中に顕在化し、「2 時間労働」という新しい人事制度をつくったことで、主婦に働くチャンスを提供し、会社も人材を集めることに成功、かつ企業ブランディングや集客面でも成果が出るなど、立体的な成果を出したことが評価された。同じくゴールドに選ばれた『聞こえる選挙』と『FISHERMAN CALL』も、課題発見力と社会的課題を解決するためのアイデアが光っていた。

審査を通じ PR の仕事を通じ社会課題を解決し、ブランディングにも寄与する様々な手法を見ることができた。課題先進国日本で PR パーソンの活躍の場はたくさんあるはずだ。

■審査委員長 (敬称略)

嶋 浩一郎 株式会社博報堂ケトル 代表取締役社長・共同 CEO

■審査委員 (敬称略／氏名五十音順)

雨宮 和弘 クロスメディア・コミュニケーションズ株式会社 代表取締役

上岡 典彦 株式会社資生堂 コーポレートコミュニケーション本部 広報部長

遠藤 祐 株式会社オズマピーアール 取締役副社長

小林 右樹 一般社団法人企業研究会 研究協力員

高梨 修 公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会 顕彰委員会 委員
ホヌ プランニング 代表

中里 忍 ブルーカレント・ジャパン株式会社 戦略 PR プランナー

松本 洋司 株式会社電通パブリックリレーションズ 関西支社
プランニング&コンサルティング局局長

吉宮 拓 株式会社ブラップジャパン 取締役

■特別審査員 (敬称略／氏名五十音順)

阿久津 聡 一橋大学大学院 国際企業戦略研究科教授

大宅 映子 評論家

田中 里沙 事業構想大学院大学 学長／宣伝会議 取締役メディア・情報統括

本件に関するお問い合わせ先

(公社) 日本パブリックリレーションズ協会
事務局：福家、渡邊、木崎

〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-31
六本木ヒルズノースタワー5F
電話：03-5413-6760

参考資料 1 <公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会について>

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会(略称:日本PR協会(PRSJ))は、1964年に結成された日本PR協会と、1974年に設立された日本PR業協会が1980年に合併統合され、時代に即したPRの在り方の探求とPRの啓発・普及を図るために設立されました。

現在は、一般企業の広報部門、PR業およびPR業関連会社、それに有識者を含む約530名で組織されているPRのプロフェッショナル団体です。2012年4月には公益法人の認定を受け、公益社団法人となりました。

主要な事業としては、「各種研修」「セミナー」などの教育事業、会員相互の交流事業、年鑑「PR Yearbook」や会員誌「協会ニュース」の刊行、PRにかかわるデータを網羅した「PR手帳」などの出版事業、優れたPR事例を顕彰する「PRアワードグランプリ」、傑出したPRパーソンを表彰する「日本PR大賞PRパーソン・オブ・ザ・イヤー」、広く社会や地域の発展に寄与し奨励に値する成果を収めた人物を表彰する「日本PR大賞PRシチズン・オブ・ザ・イヤー」の運営などを行っており、これらの活動を通じて「パブリックリレーションズ」の普及と啓発、広報・PRスキルの向上、倫理の徹底を推進しています。

2007年からは、PRパーソンとしての知識やスキル、職能意識を認定する「PRプランナー資格認定制度」をスタートさせ、協会内外の広報・PRパーソンや、広報・PRに興味を持つ学生など、幅広い人々に「PRプランナー」などの資格を付与しています。

2009年10月には、時代の要請に応える広報・PR人材育成センターを目指し、実務能力の向上を目的とした「広報PRアカデミー」を新たに開講いたしました。

また2010年4月に「広報・PR概論(PRプランナー資格認定制度1次試験対応テキスト)」、2011年3月に「広報・PR実務(PRプランナー資格認定制度2・3次試験対応テキスト)」、2012年4月に「広報・PR資格試験問題集PRプランナー資格認定制度1次・2次・3次試験過去問題集」を出版するなど、各種の事業を通じて、広報・PRの普及と発展に寄与しています。